

徳川家康について

徳川家康は現在の名古屋市に近い地域を治める小領主、松平家の息子として 1542 年に生まれました。1467 年に始まった血で血を洗う戦国時代に育ったのです。家康は 1570 年から 1586 年までの 17 年間を浜松城の城主として過ごし、そこで力を蓄え、支援を得ました。

将軍に上り詰めるまでの間、家康は数々の戦に参加しましたが、その大半は浜松城主のときで、三方ヶ原の戦い（1572 年）で惨敗しました。敵軍を率いるのは武田信玄（1521～1573 年）で、徳川軍の約 3 倍の兵力をもつ有力な大名でした。武田軍によって徳川軍は蹴散らされ、家康は命からがら逃げ出しました。家康はごくわずかしかなかった兵とともに浜松城に戻ったにもかかわらず、城門を開けたままにしておくように命じ、退却した自軍が城に戻って来られるように篝火を焚きました。この行動に、追撃してきた武田軍の軍勢は困惑しました。野営していた信玄はその夜、家康の少数の部隊に襲撃されました。家康の援軍がさらに向かってくると考えた信玄は、翌日退却を始めました。

家康は当時の戦国大名を次々に打ち破り、1603 年には事実上、無敵になりました。徳川家は 1603 年から 1867 年まで日本を支配し、数百年もの内乱の時代ののちに比較的平和な時代を統治しました。